

# 子育てかわら版

所沢市立宮前小学校  
令和4年度

No.01



## 自立するということ

令和4年4月8日(金)の埼玉新聞の「子育てコラム」に次のような記事が掲載されていたので、ご紹介します。

手を離し、目を離しても、心は離さない

新聞やテレビなどで取り上げられている通り、令和四年四月から改正民法が施行され、成年年齢が二十歳から十八歳に引き下げられました。つまり、十八歳になると「大人」として扱われ、様々なことを保護者の同意なしにできるようになります。スマートフォン契約もできずし、クレジットカードを作ることでもできます。家を借りることもできるようになります。もちろん、経済的裏付けがなければ不可能なわけですが、法律的には可能となります。さて、そうなること、これからの大きな課題は「自立」ということになります。子育てに関して、次のような言葉があります。

## 子育てコラム

「乳児は肌を離すな。幼児は肌を離せ、手を離すな。少年は手を離せ、目を離すな。青年は目を離せ、心を離すな。」

小学生は幼児性を残す一年生から、少年期に入る六年生まで、幅広い発達段階の子供たちを担当します。親の心のどこかにはいつまでも子供でいてほしい、いつまでもそばにいてほしいという気持ちがあるものですが、それがあまりにも強いと自立の妨げとなりかねません。

子供たちには大人への階段を一步一步登っていつてもらわなくてはいけません。少しずつ手を離し、目を離し、でも決して心は離さずに、成長を見守りたいものです。

(令和四年四月八日

埼玉新聞「子育てコラム」から)

この記事を読んでとても心に残りましたので紹介させていただきました。

私たち大人の役割は、子供たちとの関わりを通して、自立した大人を育てることだと思います。学校・家庭・地域が一体となって子供たちの自立を支えていければと思います。

